たが此時給仕に出た男は驚いて青くなつて引き込んでしまいました、次に出たのが鯛の鹽燒、之を見たお爺さんは

「ハヽア、之が二番だね」と云ひましたので此給仕男も驚いて戰へながら引き込んで行きました。

次に出たのが鷄のお吸ひ物、お爺さんは亦も

「ハヽア、之が三番だ」と云ひましたので此給仕男もこそ〳〵と逃げて行きました。次に出たのが栗のきんとん、お爺さんは亦も

「ハヽア、之が四番だ」と云ひましたので給仕は又急いて出て行きました、其次に來のが豚の甘煮スルトまたお爺さんは

「ハヽア、之で五つだね」と云ひましたので給仕はもう迯もかくせないと思つて

「お爺さん恐れ入りました。私共が盗んだに違ひありません」と云つて白狀してしまいました是から何んでも博士の名が廣まつて薪屋のお爺さんはほんとの博士になつてしまいましたとさ。

めでたし〳〵〳〵〳〵。

猪と狐

或日狐が山を散歩して居ると向ふの方で猪が頻りに牙を研いで居りましたので狐は不思議に思つて

狐「猪さん〳〵君は何をして居るのだね？」

と聞きました。スルト猪はけゞんな顏して

猪「何するつて、御覽の通りさ、別段何んでもないさ。」と云ひますから狐は猶更不審に思つて

狐「夫れでもおかしいではないか獵師も來ては居ないし、喧嘩の合手も居ないのに、そんなにあはてないでも宜いぢやないか、それより向ふの方へ行つて遊ばうよ！」

と云ひましたが猪は一向平氣で

猪「獵師が來たり、喧嘩の合手が出て來てからは仕事が澤山あるからね」と云つて居りました。